

TAPフォーラム 2019 ▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲

「アドベンチャー教育」 未来へ向けての ネクストステージ

社会の多様化に対応する
「アドベンチャー教育」の新たな可能性を探る

パネリスト

さ さ き と よ し
佐々木 豊志

青森大学教授

た か の た か こ
高野 孝子

早稲田大学教授

は や し と し お
林 壽夫

プロジェクト アドベンチャージャパン代表



1グループが同時に、地上5～8mでの体験が可能

日時

2019年 **3月23日** **土**

13:00～17:00

情報交換会(学内食堂) 17:30～19:30

3月24日 **日**

9:30～17:00

会場

玉川大学 大学教育棟2014 5階、TAPセンターアクティビティホール、
チャレンジコース他

参加費および申込方法 詳細はホームページをご覧ください。

申込・入金期間		区 分	一 般	学 生(学割料金)
第1次 申 込	受付開始：2018年11月20日(火) 10時 受付・入金締切：2019年 1月15日(火) 17時	2日間	早期割引 4,000円	1,000円
		1日	早期割引 2,400円	1,000円
		情報交換会	4,000円	4,000円
第2次 申 込	受付開始：2019年1月21日(月) 10時 受付・入金締切：2019年 3月11日(月) 17時	2日間	5,000円	1,000円
		1日	3,000円	1,000円
		情報交換会	4,000円	4,000円

▶ 2019年1月16日から1月20日までは、受付を停止いたしますので、ご注意ください。

▶ QRコードを読み取り、申込フォームから事前申し込みをお願いいたします。

ホームページからお申し込み可能です。



事前申込制

お問い合わせ

玉川大学TAPセンター

TEL 042-739-8604 <http://tap.tamagawa.ac.jp/>

主催：玉川大学TAPセンター

TAPフォーラム 2019

玉川学園にアドベンチャー教育が導入されてから本年度で 19 年目を迎えました。TAP を通じてこれまで様々な個人や集団・チームの持つ目標に対して、成長と学びを支援してきました。しかし、我々を取り巻く社会環境が日々めまぐるしく変化してきている昨今、TAP もさらなる進化・発展が求められています。

今回開催するフォーラムの 1 日目は、多様な経歴（野外教育、環境教育、体験教育、アドベンチャー教育等）をお持ちの実践者 3 名をパネリストとしてお迎えします。各々の貴重な経験から、未来に向けた教育観、そして、「アドベンチャー教育」についての可能性のご提案をしていただく予定です。

2 日目は、TAP 体験や、実践事例紹介等の分科会から「アドベンチャー教育」のネクストステージ（新たな段階）について考えていきます。特に、玉川学園・玉川大学に今年度新設された日本初となるチームチャレンジコースは、「1 グループ（最大 8 人）が、同時にハイチャレンジコースの体験が可能」といった特徴を持つことから、参加者の皆様には、より新しい形のグループワークを体験していただけます。また、これまで TAP を体験したことがない方のための分科会も設けております。

参加者の皆様と共に、TAP を通じてアドベンチャー教育が未来に羽ばたくための可能性について探っていけたらと考えています。

プログラム

3月23日（土）

13:00 ~ 13:15	フォーラム開会挨拶
13:15 ~ 15:15	パネリスト プレゼンテーション パネリスト〈敬称略・五十音順〉 佐々木 豊志 (青森大学教授 / くりこま高原自然学校代表) 高野 孝子 (早稲田大学教授 / 特定非営利活動法人 ECOPLUS) 林 壽夫 (プロジェクトアドベンチャー・ジャパン代表 / 株式会社野外計画創設者) コーディネーター: 村井 伸二 (玉川大学 TAP センター准教授)
15:30 ~ 16:30	パネルディスカッション 「アドベンチャー教育: 未来へ向けてのネクストステージ」
16:30 ~ 17:00	質疑応答
17:30 ~ 19:30	情報交換会

3月24日（日）

9:30 ~ 12:00	特別ワークショップ ~ 退任にあたり〜 難波 克己 (玉川大学 TAP センター長)
休憩 (12:00 ~ 13:00)	
13:00 ~ 15:30	分科会 ・アドベンチャー教育の未来 ・学校教育関係 (教育課程における TAP の活用) ・TAP 体験 (新チャレンジコース体験を中心とした TAP) ・TAP 体験 (初めての TAP)
16:00 ~ 17:00	振り返りとクロージング

*本フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございますのでご了承ください。

パネリストプロフィール <敬称略・五十音順>

さ さ き と よ し 佐々木 豊志



岩手県生まれ。一般社団法人くりこま高原自然学校代表理事、青森大学総合経営学部教授、NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク代表理事、NPO 法人みちのくトレイルクラブ代表理事、一般社団法人 RQ 災害教育センター代表理事、財団法人日本アウトワード・バウンド協会評議員。

筑波大学で野外運動・野外教育を学び、卒業後企業内で野外教育の事業化に携わる。90 年代初めにアウトドアや環境関連のネットワークと関わり 96 年栗駒山の山中に私費を投じてくりこま高原自然学校を設立する。自然体験・冒険体験・生活体験をベースに暮らしを創造しながら自然と共存する生き方を実践。2000 年に不登校・引きこもりを支援する寄宿を併設し、農的な暮らしと自然環境と共生し持続可能な豊かな暮らしを創造できる“人、と”社会、づくりに取り組んでいる。野外教育・冒険教育を実践しながら、幼少期の自然体験活動の重要性を再認識し、2005 年に「森のようちえん全国交流フォーラム」を開催。2008 年岩手宮城内陸地震、2011 年東日本大震災で被災し、「生きる力」を育む教育活動を試され、数々の被災地支援活動を行う。地域での自然学校の社会的な役割を実践している。

たかの たかこ 高野 孝子



早稲田大学文学学術院教授、立教大学客員教授、特定非営利活動法人 ECOPLUS 代表理事、自然活動家。サステナビリティ、野外・環境教育、地域社会学、社会人類学。エジンバラ大学 Ph.D (野外・環境教育)、ケンブリッジ大学 M.Phil (環境と開発)、早稲田大学政治学修士。日本学術会議 KLASICA 小委員会委員、新潟県環境審議会委員。日本キャンプ協会理事、日本環境教育フォーラム理事、文科省体験活動関連事業に係る技術審査委員会委員、財団法人日本アウトワード・バウンド協会評議員。

新潟県在住。ジャパントイムズ報道部記者を経てフリーランスに。92 年、94 年と二つの教育団体を立ち上げ、「人と自然と異文化」をテーマに、体験を重視した地球規模の環境・野外教育プロジェクトの企画運営に取り組む。犬ぞりとカヌーによる北極海横断やマイクロネシアの孤島での自らの活動を環境教育の素材とするプログラムを展開。03 年 NHK「未来への航海」では、アジア 7 カ国の子どもたち 42 名の環境教育プロジェクトを指導。09 年には日本人初の英国 BSES のリーダーとして、青少年のグリーンランド遠征を指導。12、16 年にはアルバータ大学との協働で、学生向けのカナダ遠征を実施。自身の活動歴には、グレートバリアリーフでのサンゴ礁調査、北極点パラシュート降下やシベリア犬ぞりの旅、アマゾン川下り、マダガスカル島でのサバイバルレースなど、零下 50 度からプラス 60 度の中での数多い遠征が含まれる。

2016 年春期早稲田大学ティーチングザワード受賞、2017 年ジャパンアウトドアリーダーズアワード (JOLA) 特別賞。

はやし としお 林 壽夫



東京商船大学機関科卒。YMCA のキャンプリダーなどを経て 1982 年株式会社野外計画を設立。1987 年福島県裏磐梯に教育キャンプ専用のキャンプ場として「小野川湖レイクショア野外活動センター」を設立。1995 年プロジェクト アドベンチャー・ジャパンを設立、代表。

1948 (昭和 23) 年、千葉県御宿で生まれ、東京の下町で育つ。近所ではお調子者で、粗忽ものとして知られ、幼稚園に行かなかったのが唯一の自慢。その頃の下町ではお金持ちの、良い子しか幼稚園には行かなかった。お金持ちでも良い子でもない子はみんな幼稚園より面白いことをして遊んでいた。その後、偶然受かった東京商船大学で登山と YMCA のキャンプリダーをやった後、練習船で行った東サモア、パゴパゴで見た 1 日中何もしないでボーと暮らすおじさんに強い影響を受け、人生の道を踏み外し現在に至る。

